

## 令和2年度第1回北海道立旭川美術館協議会 議事録

★旭川美術館協議会は、学識経験者、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、公募の委員で構成され、毎年度2回（通常は7月と2月）開催されます。美術館の活動について、館長に意見を述べることができる諮問機関です。委員の過半数の出席で成立します。

- 1 日 時 令和2年7月31日（金） 14:00～16:00
- 2 会 場 北海道立旭川美術館講堂
- 3 出席者数 協議会委員12名中11名出席 美術館職員7名（館長および正規職員）
- 4 出席委員 石前聖香、大石朋生（副会長）、小野田倫久、丹野佑理、千葉幸恵、彦野優佳、福家 尚（会長）、福田詠介、藤村好美、星 秀隆、村中一徳（12名中11名）〈敬称略50音順〉
- 5 議 事 (1) 令和元年度事業実施状況について  
(2) 令和元年度道立美術館評価について  
(3) 令和2年度事業運営計画について  
(4) その他（アートギャラリー北海道）

### ◎議事録（抄）

議事に入る前に、委員紹介、館長挨拶を行い、その後、協議会の会長・副会長を選出。会長に福家委員、副会長に大石委員に決定

旭川美術館の概要と協議会の位置づけについて説明した後、会長の議事進行により、次の議事について各委員に諮った。

### <議事についての意見等>

\* 事務局より令和元年度の展覧会等の実施状況（美術館評価含む）、令和2年度の事業予定等を説明（展覧会、教育普及活動については映像でも紹介）。事務局からの説明に対する意見や、美術館の役割に期待することや、今後このような取組をして欲しいというようなことについて意見や協議会委員を通しての感想等を頂く。

● 平成11年度と20年度の観覧者数が突出している。年度によって大きく変わるものだと印象を持った。また、学校関係団体について、展覧会によっては、あまり来ていないものもあるので、もっと来て良いのではと感じた。

● 展覧会毎に、来てほしいターゲットがあると思うが、ターゲットによって、周知・PRの方法をどのように行っているのか。また、美術館評価の中で、令和元年度の反省すべき点を、令和2年

度にどのように生かされているのか。

【事務局回答】⇒ 「美術館に行こう！」展など、若い層にはWeb広告や、学校を通してのチラシ配付。「岩橋英遠」展など年齢が高い層には、新聞広告を中心に周知している。

また、美術館評価について、一つとして、教育普及活動に関係し、展覧会に付随したイベントを多く出来ないかという反省点を生かし、令和2年度は指標を高く設定するなどして改善を図っている。もう一つは、周知・PRの方策として、SNSの活用。ツイッターでの情報発信や、HP上や、ロビーにモニターを置き、リモートミュージアムを行い、旭川のみならず、函館や帯広など全道の美術館の情報をリモートで発信しているところ。

- コロナの時代であり、なかなか美術館に足を運ぶことが出来ない場合もあると思うが、例えば、作品の写真を撮り、学芸員の解説をSNSで発信することは出来ないだろうか。解説してもらうことにより、美術に詳しくない方も興味を持つことに繋がると感じた。
- 美術を紹介するテレビ番組があり、以前にそこでミュシャ展を紹介しているときがあった。その後、旭川美術館のミュシャ展を新聞で知り、是非見たいと、足を運んだことがある。そのような、情報の巡り合わせは大事なのだと感じた。
- チケット購入について、現金のみというのは、どうだろうか。せめてクレジットカードは使えるようにならないだろうか。

【事務局回答】⇒ 北海道の財政が厳しい状況ではあるが、その中で、キャッシュレス化ということは話題に出ている。協議会の場でもこのような話が出たということは、担当部局に伝えていきたい。